

故 梅野和恵 の葬儀に際しての御礼

先般 梅野和恵 永眠の際はご懇篤ご鄭重なるご弔意を賜り誠に有り難く厚く御礼申し上げます。故人もさぞかし喜んでいらっしゃると思います、私どもに数日前に寄せられました手紙の中に「いつも周りの皆に気を遣いにここに明るい笑顔の和恵さんの姿が焼き付いてはなれません」という一文を頂きました、妻は他人への思いやりを信条に生きてまいりました、私達は連れ添い始めて間もなく40年になりますが、この我儘な私にも誠心誠意尽くしてくれました、最高の伴侶でした、私にとって将に神様でした。

その神様を癌がおそったのがH13年10月でした、大腸がんでした、幸いにも日本一と言われる築地の国立がんセンターで手術摘出することができましたが、その1年10カ月後のH15年7月にまた同じ大腸に新たな癌が見つかりこれは転移ではないということでしたが、これも手術摘出し爾後一切抗がん剤も使わず完治したかと喜んでおりました、不幸にもそれから5年3カ月後のH20年11月の定期検診でいきなり再発肝臓、肺等への転移が見つかり手術不可能ということが宣告され抗がん剤との闘いが始まりました、生来何事にも真面目な妻は完治の見込みはないといわれながらも必死に

その副作用に耐え治療に励みましたが、今年の3月抗がん剤を使い切り「天下の国立がんセンター」に見放され止む無く温熱療法など東洋医学に頼りつつ疼痛に対する緩和ケアの段階にはいりました。この4月からは訪問医療専門のクリニックにより殆ど毎日の往診を受け見事なまでの疼痛管理など緩和ケアを実施して頂きましたが5月18日未明、さほど苦しむことなく安らかに眠りにつきました。この間クリニックの先生には実に献身的な往診とアドバイスを頂き看病する我々にとって心強い拠り所にさせて頂きました、和恵は最期まで最高の先生に恵まれたと思っています。

和恵は名前のおり和を恵み和に恵まれ広く皆様のご寵愛を受け本当に幸せな生涯を送らせて頂きました、短い一生ではありましたが、最高に幸せな生涯だったと思います。生前賜りましたご寵愛に対し故人になり替わりまして厚く御礼申し上げます、

また葬儀に際して二日間受付案内等担当して頂きました同期の皆様お世話になりました、有難うございました。

今後とも我々残されました遺族に対して故人同様引き続きご厚情ご厚誼ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげましてお礼の挨拶とさせて頂きます、誠に有難うございました。